

# 川内川からオリンピックピックを目指して!! 女子カヤックシングル 中山景子さん



ゲートを張り、轟の瀬で練習をする中山景子さん

い」と五輪出場への意気込みを話す中山さん。

中山さんは、小学校2年生からカヌーをはじめ、中学3年生の頃から川内川轟の瀬をベースに練習をされています。宮之城高等学校在学中は各種大会での優勝やジュニア世界選手権での上位入賞などの成績を修めています。現在は、第一工業大学に通う3年生です。豪雨災害後は、被災者への配慮から轟の瀬での練習を控えていましたが、11月より練習を再開され、北京五輪を目指し、日々練習に励んでいます。

指導をする鹿児島県カヌー協会長の木場修さんは「轟の瀬は水量もあり、深さも十分。ゲート設定もできるので最高の練習場所です。何より地域の方が温かく見守ってくださり、有り難い。何とか川内川から五輪選手を送り出したい」と話され、北京五輪に向け、共に頑張っておられます。

幼い頃から川内川で練習を積んできた中山さんの活躍は、地域に元氣と勇気を与えるものです。2008年北京五輪出場という中山さんの夢の実現に向けて地域のみならず応援していきましょう。

10月29日、愛知県豊田市の矢作川カヌーシラロームコースで、平成18年度日本カヌーシラローム選手権大会が行われ、本町佐志区の中山景子さんが出場し、優勝されました。

優勝した中山さんは、日本代表に選ばれ、北京五輪予選の出場権を獲得。五輪出場を目指し、来年8月に予定されている五輪予選を兼ねたブラジルでの世界選手権に挑まれます。

「大会では、ノーマスでゲートを通し、優勝できました。五輪予選では日本の出場枠を得られるよう頑張りたい」と中山景子さん(10月31日来庁)



選手権優勝と五輪予選出場権獲得の喜びを伝える中山景子さん(10月31日来庁)

## 第6回鹿児島県果樹振興大会

11月7日から8日にかけて、第6回鹿児島県果樹振興大会が宮之城文化センターで開催されました。

この大会は、果樹農家の経営安定と産地再構築の実現に向けて県内果樹農家が「今、一度立ち上がろう」とお互い呼びかけ、3年に1回開かれています。

大会には、県内果樹農家・JA・行政・市場関係者など750人が参加し、功労者表彰や、優良農家事例発表、記念講演などが行われました。

功労者表彰では、本町の新生みかん生産組合(JAさつま果樹部会)が生産組織の部で受賞されました。

また、新生果樹団地では、みかんとマンゴー産地視察も行われ、本町の果樹の振興方策などが紹介されました。



表彰を受ける新生みかん生産組合(肥後紀康組合長)



事例発表をする祝迫直人さん(二渡)